



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

第202号

発行:2023年2月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会



2022年度 神奈川県病院協会事務長表彰を受けて

新中川病院 事務部長 松田 隆

この度は2022年度神奈川県病院協会事務長表彰をいただき、誠にありがとうございました。この表彰は私にとって身に余る荣誉であり、これもひとえに理事長、常務理事、福田院長、末盛院長をはじめ、法人の皆様方の温かいご支援とご指導の賜と深く感謝申し上げます。

私は、医療法人社団鵬友会の部長職に奉職して約15年、法人内の様々な部署の役職を経験させて頂いたことが、現在の私の糧となり受賞に結びついていることは語るまでもありません。無論ハッピーエンドばかりではなく、厳しい判断を下さなくてはならない時にご指導、アドバイスを頂きながら難局を乗り越え今の自分がいるということは、感謝の極みです。社会人として、医療従事者として、鵬友会という法人の中で数々の経験を積み自分自身の成長の糧となっております。今回の受賞は、大きな自信となり、また今後の自分自身を鼓舞するものとなりました。

早いもので日本にCOVID-19が上陸して3年の月日が過ぎました。その間に日本の医療も受診控え、救急患者の搬送先がないなど、様々な問題が露呈することにより急激に変化しました。残念ながらこれからもCOVID-19とは付き合っていかななくてはなりません。また、国が強く推奨する医療のデジタル化の波に乗らなくては、病院として生き残ることは厳しい時代にすでに突入しており、医療業界で一般的に言われていた「3時間待ちの3分間診療」「地域老人の

憩いの場」などと揶揄されてきた過去には、もう戻ることはないでしょう。マイナンバーカードに保険証・処方箋データの取り込み、オンライン診療、カード決済化の推進、今後も感染症対策の観点からも患者様同士の非接触化・病院での投薬時間・会計時間の短縮化など具体的にどのように当院でも落とし込むのがベストか問題は山積しております。そして当院には、訪問看護ステーションを併設しております。急速にデジタル化していく医療にどうしても乗り遅れがちな高齢者等の方々に対し、どのように仲介、対応するのも事務部長の仕事であると自覚しております。

最後になりましたが、私はこれからも与えられた職務を全うするため患者様にとってそしてそこで働く職員にとって、自分が病気となった時は当たり前、また親戚や友人が病気となった時に「うちの病院においでよ」と今まで以上に気軽に来院できる病院にしたいと思っております。

改めてこのような名誉ある賞を頂きありがとうございました。



特集 今年の花粉症は例年の2倍以上！

節分も過ぎ、花粉症の季節がやってきました。横浜市では毎年2月初旬から中旬頃にスギ花粉が飛び始めます。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中、人前でくしゃみをしたり鼻をかんだりするのがつらいと感じていらっしゃる方も少なくないと思います。また、花粉症の症状と新型コロナウイルス、特にオミクロン株の症状は似ていると言われていています。花粉症だと思い込んで感染に気づかず対応が遅れたり、くしゃみで感染を拡げてしまったりする可能性もあります。早めに万全の対策をして、この季節を乗り切りましょう。

◆2023年春 予想花粉飛散量

【前年（2022年春）との比較】

東北地方では前年より少なく、その他の地方では多くなる見込み。特に東北南部から関東、東海、近畿、中国地方は非常に多くなると予想される。

【例年（過去10年平均値）との比較】

東北南部から関東、東海では**例年の2倍以上**の花粉が予測され、関東から西の地方ではヒノキ花粉が多くなる見込み。東北北部と九州の一部は例年よりやや少ない見込みだが、その他の地域では、例年を超える所が多くなると予想。

◆2023年花粉飛散量の主な要因

花粉を飛ばすスギやヒノキの雄花は6月前半から成長を始め、その生産量は前年夏の気象条件（日照時間/降水量、気温）と密接に関係しています。

日照時間は、2022年6月では東北北部と北海道で平年（過去30年間の平均値）より少なく、その他の地方（特に、関東から西の地方）では平年より多くなりました。2022年7月では中国、四国、九州で平年よりやや少なく、その他の地域ではやや多くなりました。

気温は、2022年6月では北海道の北部を除き、全国的に平年よりやや高く（特に6月下旬は非常に高く）、2022年7月も全国的に平年より高くなりました。

その他の要因として、東北北部では2022年春の花粉数が多かったことと、2022年6月の日照時間が少なくなった影響でスギ雄花の成長が悪くなっていました。その他の地方では、スギ雄花の着花量は前年より多く、関東、北陸、中国地方では過去10年と比較して雄花量が最も多くなっていたため、これらの地域ではスギ花粉の量が極めて多くなる可能性があります。

◆花粉症対策

【マスク】花粉症対策としてマスクを使用されている方は、コロナ禍に限らず多いのではないのでしょうか。マスクを使用することで、吸い込む花粉の量を約1/3~1/6に減らすことができるといわれており、特に鼻の症状が気になる方に効果的です。大事なことは顔にフィットするものを選ぶことで、横に隙間ができるとそこから花粉が入ってしまいます。

【洋服選び】外出するときの洋服によって、家に持ち込んでしまう花粉の量に違いが出る事をご存知でしょうか。一般にウールなどの素材は花粉が付着しやすく、綿や化学繊維などは付着しにくいと言われていています。

【メガネ】ある実験では、メガネを使用しない場合に比べて、通常のメガネでも目に入る花粉量はおよそ40%減少し、防御カバーのついた花粉症用のメガネではおよそ65%も減少しました。また、花粉症の症状があるときのコンタクトレンズには要注意です。コンタクトレンズによる刺激がアレルギー性結膜炎を悪くしてしまう事もあります。

【うがい】花粉時期になると喉がイガイガする、こんな経験はないでしょうか。鼻から吸い込んで奥に付着した花粉は、粘膜の働きで喉の方へと送られます。かぜのシーズンだけでなく、家に帰ったらうがいの習慣を続けて、喉の花粉を洗い流しましょう。

【薬】アレルギー症状を抑える薬はいくつかあります。スギ花粉が本格的に飛ぶ1~2週間前（2月上旬頃）から第二世代抗ヒスタミン薬と呼ばれる薬を内服していると、花粉が飛んできた時には症状を抑える状態になって、ひどい状態にならずにすみます。最近は眠気の副作用が少ない薬や鼻づまりにもある程度効く薬などあり、自分にあった薬をお勧めします。